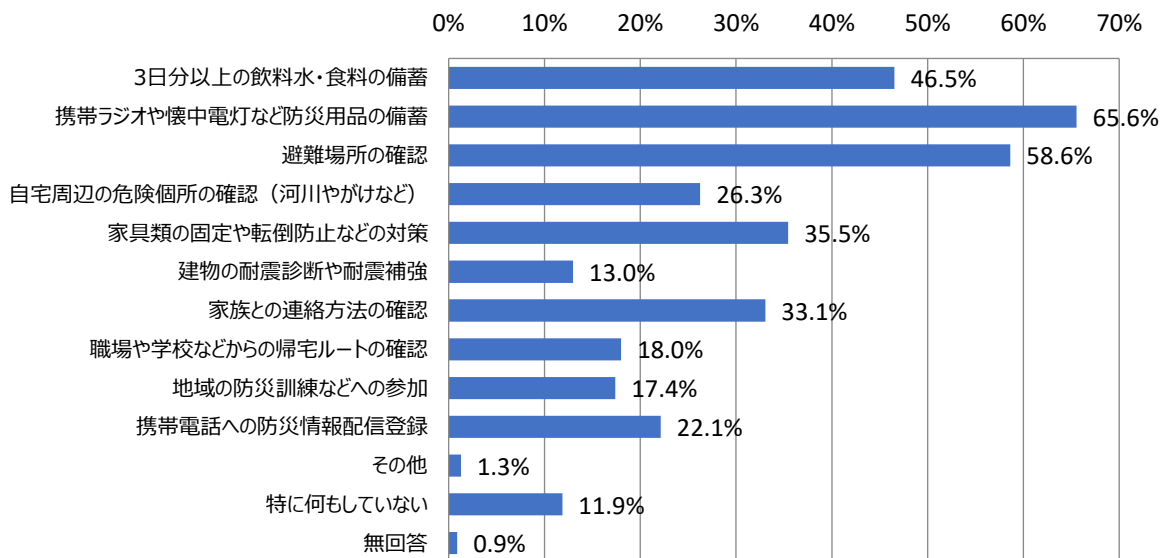


## Ⅱ. 調査結果

### 1. 防災について

#### 問1 災害に備えて準備をしていること・・・(〇はいくつでも)

- ・「携帯ラジオや懐中電灯など防災用品の備蓄」が65.6%、「避難場所の確認」が58.6%、「3日分以上の飲料水・食糧の備蓄」が46.5%となっており、この3つの回答率が高かった。
- ・「建物の耐震診断や耐震補強」が13.0%、「地域の防災訓練などへの参加」が17.4%、「職場や学校などからの帰宅ルートの確認」が18.0%と、比較的低い回答率となっている。



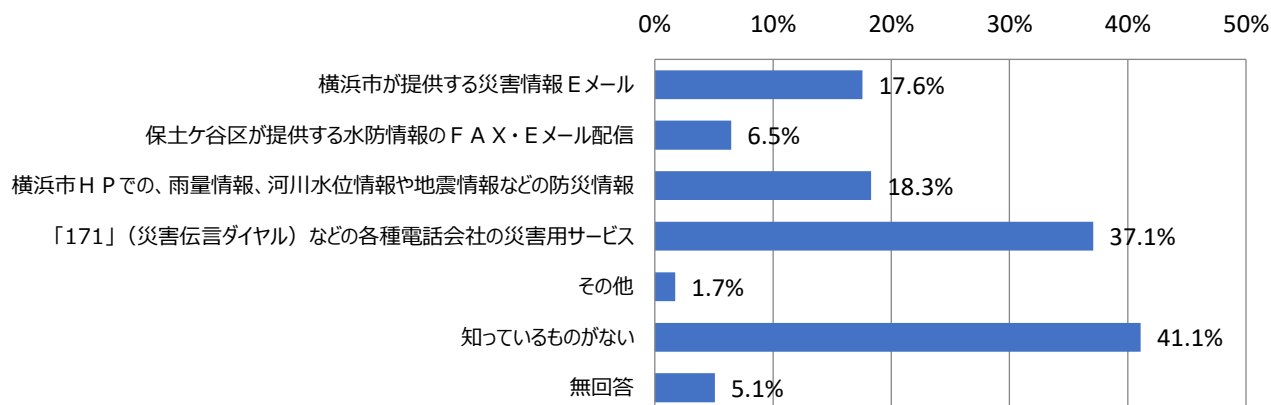
#### ■年齢別 災害に備えて準備していること

- ・回答率の高い項目（水・食糧の備蓄、防災用品の備蓄、避難場所の確認）でも、若年層ほど回答率が低く、高齢になるほど回答率が高い傾向がみられた。
- ・帰宅ルートの確認や防災情報配信登録については、若年～中年層の回答率が高齢層よりも高く、上記とは逆の傾向を示した。

		問1 災害に備えて準備していること（複数回答可）													
		3日以上の飲料水・食料の備蓄	携帯ラジオや懐中電灯など防災用品の備蓄	避難場所の確認	自宅周辺の危険個所の確認 (河川やがけなど)	家具類の固定や転倒防止などの対策	建物の耐震診断や耐震補強	家族との連絡方法の確認	職場や学校などからの帰宅ルートの確認	地域の防災訓練などへの参加	携帯電話への防災情報配信登録	その他	特に何もしていない	無回答	
全体	合計	1,794	46.5%	65.6%	58.6%	26.3%	35.5%	13.0%	33.1%	18.0%	17.4%	22.1%	1.3%	11.9%	0.9%
F1 年齢 (10歳刻み)	29歳以下	141	27.0%	31.9%	41.1%	17.7%	23.4%	4.3%	29.8%	22.7%	2.8%	12.8%	0.7%	28.4%	0.7%
	30歳～39歳	201	38.8%	53.2%	55.2%	24.4%	23.4%	10.9%	27.4%	26.9%	7.0%	24.4%	2.5%	14.4%	1.0%
	40歳～49歳	279	37.6%	57.0%	53.0%	22.6%	33.7%	10.0%	34.8%	30.5%	14.0%	27.6%	1.4%	13.3%	0.0%
	50歳～59歳	301	45.8%	68.1%	60.1%	26.2%	40.2%	12.3%	28.9%	22.9%	14.3%	30.9%	0.7%	6.6%	0.0%
	60歳～69歳	321	49.5%	76.6%	60.1%	24.9%	37.4%	13.1%	30.8%	13.7%	18.4%	21.5%	0.9%	9.0%	0.3%
	70歳～79歳	357	60.5%	76.5%	69.2%	33.3%	40.9%	18.2%	39.5%	9.0%	29.4%	18.2%	1.4%	8.4%	1.4%
	80歳以上	183	54.1%	75.4%	61.7%	29.5%	36.1%	18.0%	38.3%	3.8%	25.7%	14.2%	1.6%	15.3%	1.1%

問2 保土ヶ谷区や横浜市などが実施する防災事業の認知（〇はいくつでも）

- ・最も多かった回答は「知っているものがない」の41.1%であった。
- ・認知されている防災事業の中では、「各種電話会社の災害用サービス」が37.1%と多かった。
- ・「保土ヶ谷区が提供するFAX・Eメール配信」の認知度は6.5%と低くなっている。



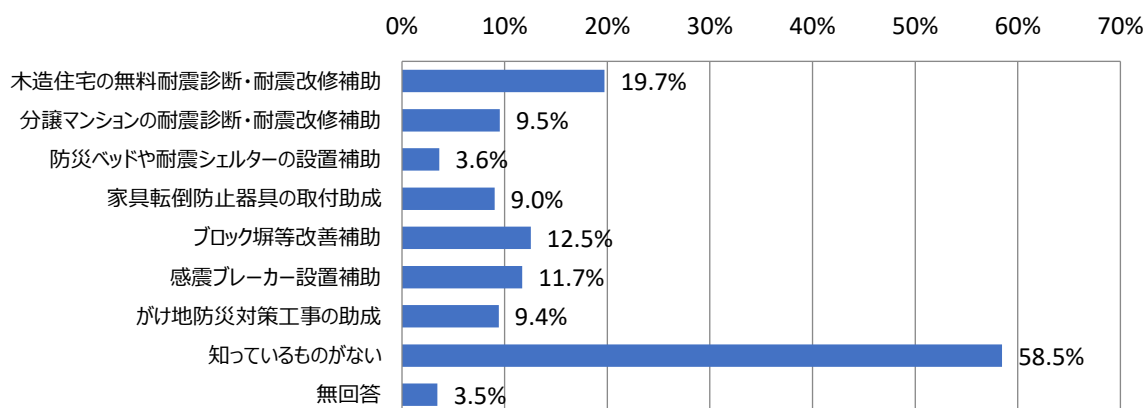
■年齢別 保土ヶ谷区や横浜市などが実施する防災事業の認知

- ・年齢別の認知度については、どの事業についても29歳以下や30歳代の若年層と70歳代、80歳以上の高齢者の認知度が比較的低く、40歳代、50歳代の中年層の認知度が高くなっている。
- ・「知っているものがない」の割合も、若年層と高齢者で高くなっている。

		問2 保土ヶ谷区や横浜市などが実施する防災事業の認知（複数回答可）							
合計		横浜市が提供する災害情報Eメール	保土ヶ谷区が提供する水防情報のFAX・Eメール配信	横浜市HPでの、雨量情報、河川水位情報や地震情報などの防災情報	「171」(災害伝言ダイヤル)などの各種電話会社の災害用サービス	その他	知っているものがない	無回答	
全体	1,794	17.6%	6.5%	18.3%	37.1%	1.7%	41.1%	5.1%	
F1 年齢 (10歳刻み)	29歳以下	141	8.5%	1.4%	14.2%	36.9%	0.0%	50.4%	1.4%
	30歳～39歳	201	16.4%	3.5%	20.9%	37.3%	0.5%	46.3%	1.0%
	40歳～49歳	279	20.4%	5.0%	18.6%	42.3%	1.1%	36.6%	1.8%
	50歳～59歳	301	23.3%	8.3%	20.6%	46.5%	1.0%	34.2%	2.0%
	60歳～69歳	321	18.7%	8.1%	20.2%	38.0%	1.2%	40.8%	2.8%
	70歳～79歳	357	18.2%	9.5%	16.0%	33.3%	3.6%	39.8%	9.5%
	80歳以上	183	9.8%	4.4%	16.4%	20.8%	3.8%	48.6%	15.8%

### 問3 保土ヶ谷区や横浜市が行っている減災のための事業の認知（〇はいくつでも）

- ・事業の中では「木造住宅の無料耐震診断・耐震改修補助」が19.7%と高い。一方、「防災ベッドや耐震シェルターの設置補助」は3.6%と認知度が低い。



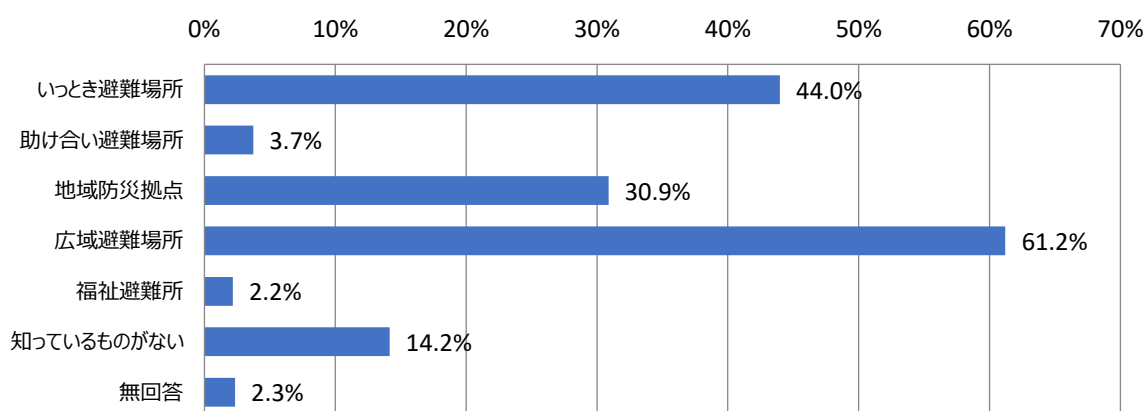
### ■年齢別 保土ヶ谷区や横浜市が行っている減災のための事業の認知

- ・どの事業についても、若年層ほど認知度が低く、高齢になるほど認知度が高い傾向にある。
- ・「知っているものがない」については、若年層ほどその割合が高い。

		問3 保土ヶ谷区や横浜市が行っている減災のための事業の認知（複数回答可）									
		合計	木造住宅の無料耐震診断・耐震改修補助	分譲マンションの耐震診断・耐震改修補助	防災ベッドや耐震シェルターの設置補助	家具転倒防止器具の取付助成	ブロック塀等改善補助	感震ブレイカー設置補助	がけ地防災対策工事の助成	知っているものがない	無回答
全体		1,794	19.7%	9.5%	3.6%	9.0%	12.5%	11.7%	9.4%	58.5%	3.5%
F1 年齢 (10歳刻み)	29歳以下	141	6.4%	5.7%	1.4%	3.5%	4.3%	1.4%	5.0%	83.0%	0.7%
	30歳～39歳	201	4.5%	4.5%	2.0%	3.0%	6.5%	6.0%	3.5%	79.6%	0.5%
	40歳～49歳	279	13.3%	4.3%	2.5%	3.2%	7.9%	8.6%	7.2%	69.9%	1.1%
	50歳～59歳	301	19.6%	6.6%	2.3%	7.6%	9.3%	11.0%	7.0%	61.8%	2.3%
	60歳～69歳	321	24.3%	11.5%	4.0%	10.0%	16.2%	14.0%	13.7%	58.9%	1.2%
	70歳～79歳	357	30.5%	16.8%	6.4%	14.6%	20.2%	17.4%	14.6%	37.8%	6.4%
	80歳以上	183	28.4%	13.7%	4.9%	19.1%	17.5%	17.5%	9.8%	42.6%	9.8%

#### 問4 震災時の避難場所の認知（〇はいくつでも）

- ・「広域避難場所」が61.2%と最も高く、「いつとき避難場所」が44.0%でそれに次いで認知度が高い。
- ・「助け合い避難場所」は3.7%、「福祉避難場所」が2.2%と認知度が非常に低かった。



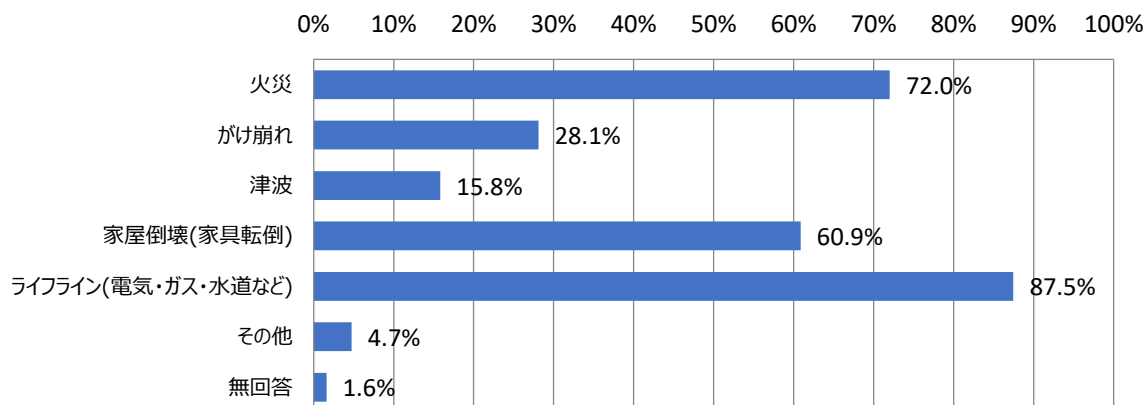
#### ■年齢別 震災時の避難場所の認知

- ・「いつとき避難場所」は高齢者以外への認知度が比較的低い。
- ・「地域防災拠点」については30歳代～50歳代の中年層への認知度が比較的低い。
- ・「広域避難場所」は特に29歳以下の若年層への認知度が比較的低い。
- ・「知っているものがない」割合は、若年層で高く、年齢が上がるにつれ減っていく傾向がある。

		合計	問4 震災時の避難場所の認知（複数回答可）						知っているものがない	無回答
			いつとき避難場所	助け合い避難場所	地域防災拠点	広域避難場所	福祉避難所			
全体		1,794	44.0%	3.7%	30.9%	61.2%	2.2%	14.2%	2.3%	
F1 年齢 (10歳刻み)	29歳以下	141	39.0%	0.7%	29.1%	44.0%	4.3%	26.2%	0.0%	
	30歳～39歳	201	39.3%	3.0%	25.4%	53.7%	1.5%	21.4%	1.0%	
	40歳～49歳	279	38.4%	3.2%	26.2%	61.3%	1.1%	16.8%	0.0%	
	50歳～59歳	301	39.5%	1.3%	28.6%	70.4%	2.3%	11.6%	2.3%	
	60歳～69歳	321	42.7%	5.0%	33.6%	68.5%	2.2%	10.6%	1.2%	
	70歳～79歳	357	52.7%	4.5%	37.0%	60.2%	2.5%	9.0%	3.6%	
	80歳以上	183	56.3%	8.2%	33.9%	58.5%	2.2%	12.6%	6.0%	

問5 大地震による被害として不安なもの（〇はいくつでも）

・「ライフライン（電気・ガス・水道など）」が87.5%と最も高く、次いで「火災」の72.0%、「家屋倒壊（家具転倒）」の60.9%が高い割合となっている。



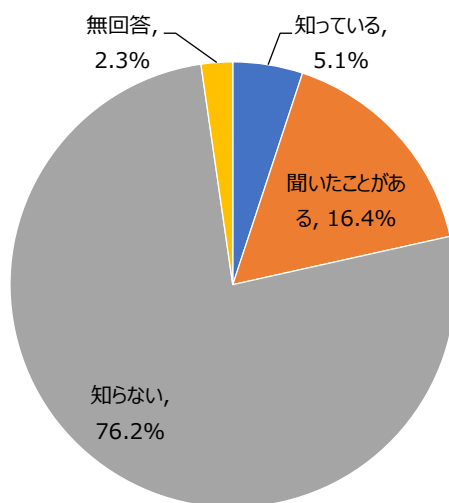
■年齢別 大地震による被害として不安なもの

- ・「火災」については、高齢者ほど割合が高くなっている。
- ・「がけ崩れ」「津波」については、29歳以下、30歳代の若い世代の割合が高い。
- ・「家屋倒壊（家具転倒）」、「ライフライン」については、世代による差はそれほどない。

		問5 大地震による被害として不安なもの（複数回答可）							
		合計	火災	がけ崩れ	津波	家屋倒壊（家具転倒）	ライフライン	その他	無回答
全体		1,794	72.0%	28.1%	15.8%	60.9%	87.5%	4.7%	1.6%
F1 年齢 (10歳刻み)	29歳以下	141	61.7%	31.2%	27.7%	60.3%	88.7%	5.7%	0.0%
	30歳～39歳	201	67.7%	42.3%	23.9%	65.2%	90.5%	9.0%	1.0%
	40歳～49歳	279	70.3%	25.8%	16.5%	60.6%	86.4%	7.9%	0.4%
	50歳～59歳	301	70.4%	28.2%	16.3%	62.1%	86.0%	4.0%	1.0%
	60歳～69歳	321	74.1%	29.6%	12.5%	60.1%	89.4%	1.9%	1.2%
	70歳～79歳	357	75.1%	23.8%	13.7%	60.5%	88.2%	3.6%	2.0%
	80歳以上	183	80.9%	20.2%	6.6%	57.9%	84.7%	2.7%	4.4%

問6 保土ヶ谷区「20万区民の自助・共助による減災運動」の認知（〇はひとつだけ）

・「知らない」が76.2%となっている一方、明確に「知っている」という回答は5.1%となっており、区民の認知度は低いと言える。



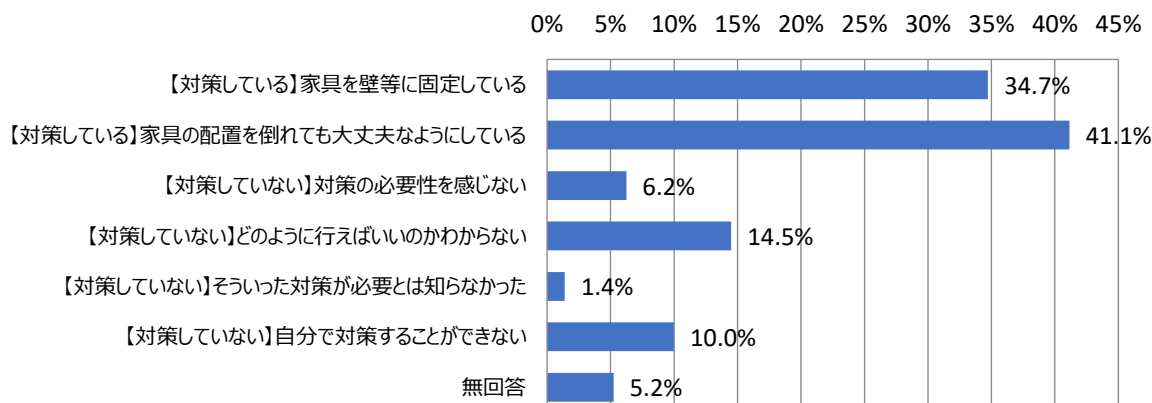
■年齢別 保土ヶ谷区「20万区民の自助・共助による減災運動」の認知

・年齢が低いほど認知度が低く、年齢が上がるほど認知度が高い傾向が認められる。

		問6 保土ヶ谷区「20万区民の自助・共助による減災運動」の認知（単一回答）				
		合計	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		1,794	5.1%	16.4%	76.2%	2.3%
F1 年齢 (10歳刻み)	29歳以下	141	1.4%	5.7%	92.9%	0.0%
	30歳～39歳	201	2.0%	8.0%	88.6%	1.5%
	40歳～49歳	279	3.9%	11.8%	83.9%	0.4%
	50歳～59歳	301	2.7%	15.6%	81.1%	0.7%
	60歳～69歳	321	4.4%	19.6%	74.5%	1.6%
	70歳～79歳	357	10.4%	24.1%	61.3%	4.2%
	80歳以上	183	8.2%	23.0%	62.8%	6.0%

### 問7 「家具転倒防止」対策について（〇はいくつでも）

- ・「家具を壁等に固定している」が34.7%、「家具の配置を倒れても大丈夫なようにしている」が41.1%と、何らかの対策をしている回答の割合が高い結果となった。
- ・対策をしていない回答の中では、「対策の必要性を感じない」が6.2%、「そういった対策が必要とは知らなかった」が1.4%と低く、「どのように行えばいいのかわからない」14.5%、「自分で対策することができない」10.0%のように、必要性は感じているができないという回答の割合が比較的高かった。



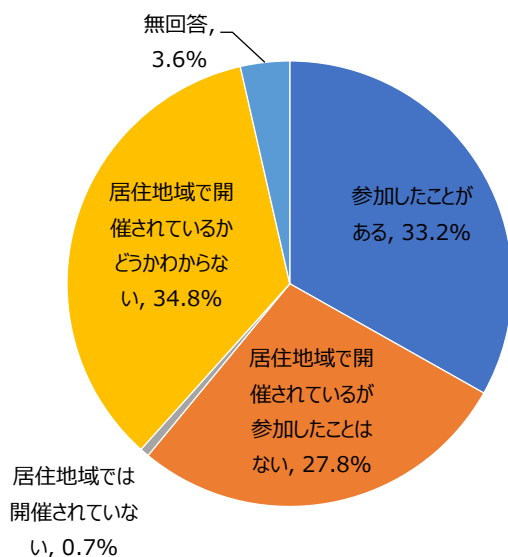
### ■年齢別 「家具転倒防止」対策について

- ・対策をしている回答の中では、「家具を壁等に固定している」は30歳代で最も低いが、「家具の配置を倒れても大丈夫なようにしている」は逆に30歳代で最も高く、状況に応じて可能な手段で対策をしていることが考えられる。
- ・対策をしていない回答の中では、「どのように行えばいいのかわからない」が若年層ほど高い傾向があり、「自分で対策することができない」は逆に高齢者ほど高い傾向がある。前者は防災知識の不足や、後者は回答者の体力的な問題も関係することが考えられる。

		問7 「家具転倒防止」対策について（複数回答可）								
		合計	家具を壁等に固定している	家具の配置を倒れても大丈夫なようにしている	対策の必要性を感じない	どのように行えばいいのかわからない	そういった対策が必要とは知らなかった	自分で対策することができない	無回答	
全体		1,794	34.7%	41.1%	6.2%	14.5%	1.4%	10.0%	5.2%	
F1 年齢 (10歳刻み)	29歳以下	141	29.8%	35.5%	4.3%	29.1%	1.4%	9.9%	0.0%	
	30歳～39歳	201	24.9%	48.3%	5.5%	24.9%	1.5%	3.5%	2.5%	
	40歳～49歳	279	31.2%	44.8%	9.7%	15.1%	1.4%	5.4%	2.9%	
	50歳～59歳	301	39.2%	39.9%	5.3%	13.6%	0.7%	7.6%	4.0%	
	60歳～69歳	321	35.8%	41.7%	4.7%	10.0%	1.9%	9.7%	5.3%	
	70歳～79歳	357	39.5%	41.2%	8.4%	9.2%	0.8%	12.9%	7.6%	
	80歳以上	183	37.2%	33.9%	3.8%	9.8%	2.7%	23.0%	11.5%	

問8 自治会・町内会など地域が取り組む防災講習会について（〇は一つだけ）

- ・「参加したことがある」は33.2%で、「居住地域で開催されているが参加したことはない」が27.8%となっている。合計すると、地域の防災講習会の存在を知っている回答者の割合は約60%であり、そのうちの半数が参加していることになる。
- ・一方、「居住地域で開催されているかどうかわからない」という回答も34.8%あり、この層への周知を進められれば、防災講習会への参加率は更に増加が見込めると思われる。



■年齢別 自治会・町内会など地域が取り組む防災講習会について

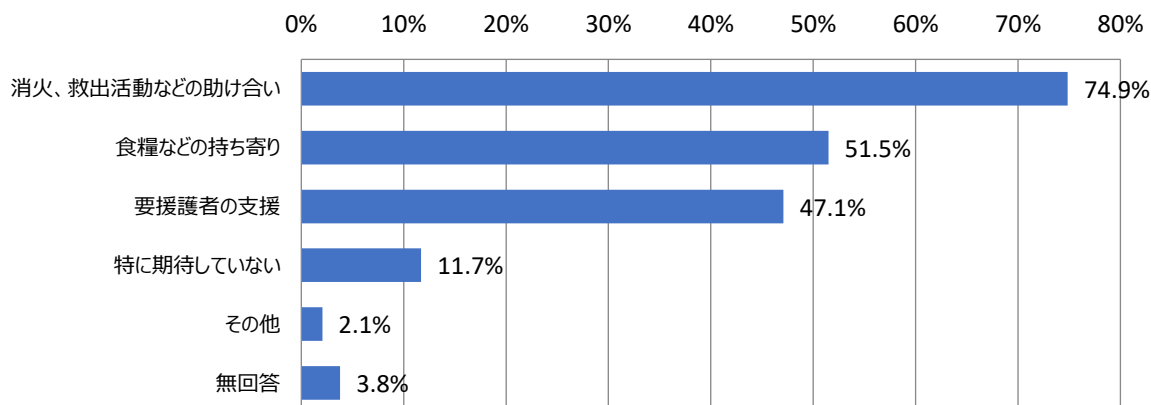
- ・「参加したことがある」回答は、年齢が若いほど回答率が大幅に低くなっている。
- ・「居住地域で開催しているかどうかわからない」回答は、年齢が低いほど回答率が大幅に高くなっており、若年層への周知が進んでいないことがわかる。
- ・「居住地域で開催されているが参加したことはない」回答は、30歳代～60歳代で比較的割合が高く、29歳以下は割合が低い。若年層は、周知が進めば参加者が増加する余地が多いといえる。

		問8 自治体・町内会など地域が取り組む防災講習会について（単一回答）					
合計		参加したことがある	居住地域で開催されているが参加したことはない	開催されていない	居住地域で開催しているかどうかわからない	無回答	
全体	1,794	33.2%	27.8%	0.7%	34.8%	3.6%	
F1 年齢 (10歳刻み)	29歳以下	141	7.8%	19.1%	0.0%	70.9%	2.1%
	30歳～39歳	201	13.4%	30.3%	0.0%	54.2%	2.0%
	40歳～49歳	279	26.5%	33.3%	0.7%	38.4%	1.1%
	50歳～59歳	301	33.2%	31.6%	1.0%	32.9%	1.3%
	60歳～69歳	321	42.4%	30.2%	0.9%	24.0%	2.5%
	70歳～79歳	357	47.6%	23.0%	0.8%	22.4%	6.2%
	80歳以上	183	41.0%	22.4%	0.5%	27.3%	8.7%



### 問9 災害時、隣近所など地域に期待すること（〇はいくつでも）

- ・「消火、救助活動などの助け合い」が74.9%と最も高い。
- ・また「食糧などの持ち寄り」「要援護者の支援」なども半数近くの回答者が期待すると回答しており、災害時に近隣地域の助け合いを期待する割合は総じて高いと言える。



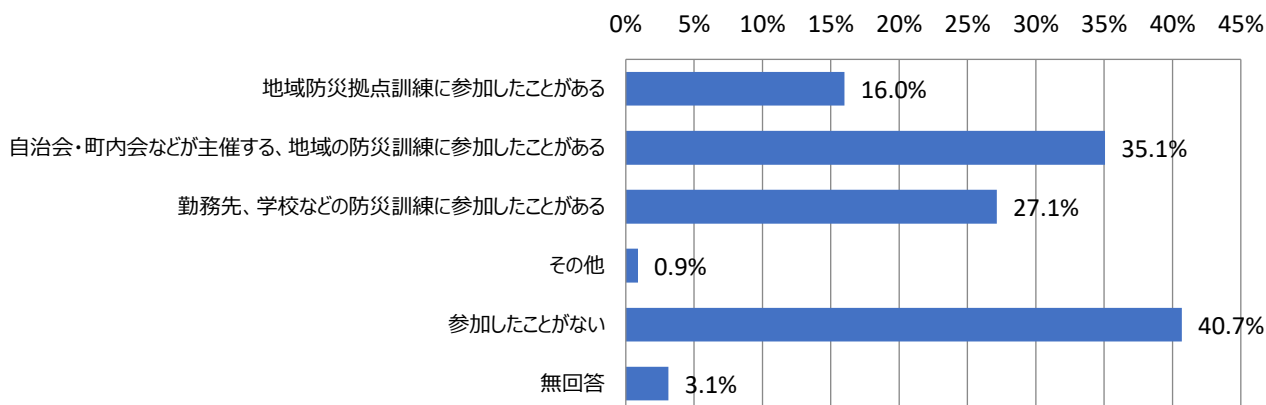
### ■年齢別 災害時、隣近所など地域に期待すること

- ・明確な年齢別の傾向や読み取れる差は少ないが、29歳以下の層と80歳以上の高齢者では地域の支援のうち「消火、救助活動などの助け合い」については、他の年齢層に比べ期待している人が少ない傾向がみられる。

		合計	問9 災害時、隣近所など地域に期待すること（複数回答可）					
			消火、救助活動などの助け合い	食糧などの持ち寄り	要援護者の支援	特に期待していない	その他	無回答
全体		1,794	74.9%	51.5%	47.1%	11.7%	2.1%	3.8%
F1 年齢 (10歳刻み)	29歳以下	141	68.1%	48.9%	38.3%	15.6%	0.7%	0.0%
	30歳～39歳	201	78.6%	61.2%	48.3%	10.0%	2.5%	1.0%
	40歳～49歳	279	73.8%	52.0%	44.8%	14.3%	3.2%	1.4%
	50歳～59歳	301	78.4%	46.2%	46.8%	12.0%	3.0%	1.7%
	60歳～69歳	321	79.1%	54.2%	51.1%	10.3%	1.2%	1.9%
	70歳～79歳	357	76.8%	55.7%	49.6%	9.5%	1.1%	7.0%
	80歳以上	183	62.8%	40.4%	46.4%	12.6%	2.7%	11.5%

問10 地域防災拠点や各地域で行われる防災訓練への参加の有無（〇はいくつでも）

- ・参加したことがあるという回答の中では、「自治会・町内会などが主催」が35.1%と最も多く、次いで「勤務先、学校など」が27.1%、「地域防災拠点」が16.0%となっている。
- ・一方、「参加したことがない」との回答が最も多く40.7%であった。



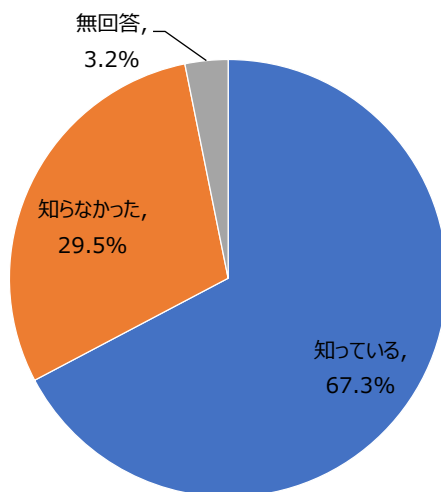
■年齢別 地域防災拠点や各地域で行われる防災訓練への参加の有無

- ・「参加したことがない」は29歳以下と30歳代で比較的割合が高く、50歳代～80歳以上の年代に比べ訓練への参加率が低い。
- ・「地域防災拠点訓練」への参加率は、年齢が高いほど高い傾向がある。
- ・「自治会・町内会などが主催」の訓練への参加率は、50歳代以上の参加率が比較的高い一方、40歳代以下の層では年齢が若いほど大きく参加率が減少する傾向がある。
- ・29歳以下の層は「勤務先、学校など」の訓練への参加率が高い。

		問10 地域防災拠点や各地域で行われる防災訓練への参加の有無（複数回答可）						
合計		地域防災拠点訓練に参加したことがある	自治会・町内会などが主催する、地域の防災訓練に参加したことがある	勤務先、学校などの防災訓練に参加したことがある	その他	参加したことがない	無回答	
全体	1,794	16.0%	35.1%	27.1%	0.9%	40.7%	3.1%	
F1 年齢 (10歳刻み)	29歳以下	141	2.8%	5.7%	46.1%	0.0%	48.9%	0.0%
	30歳～39歳	201	6.0%	16.4%	33.8%	0.0%	56.2%	1.0%
	40歳～49歳	279	8.6%	24.7%	36.9%	1.1%	45.5%	0.7%
	50歳～59歳	301	12.3%	40.9%	34.9%	1.0%	35.5%	1.3%
	60歳～69歳	321	17.1%	46.1%	29.6%	0.9%	34.6%	1.6%
	70歳～79歳	357	30.3%	46.2%	10.9%	1.1%	36.4%	6.2%
	80歳以上	183	25.7%	44.3%	6.6%	1.6%	37.7%	8.7%

問11 「通電火災」の認知（○は一つだけ）

・「知っている」が67.3%と、約3分の2の回答者が「通電火災」について認知している。



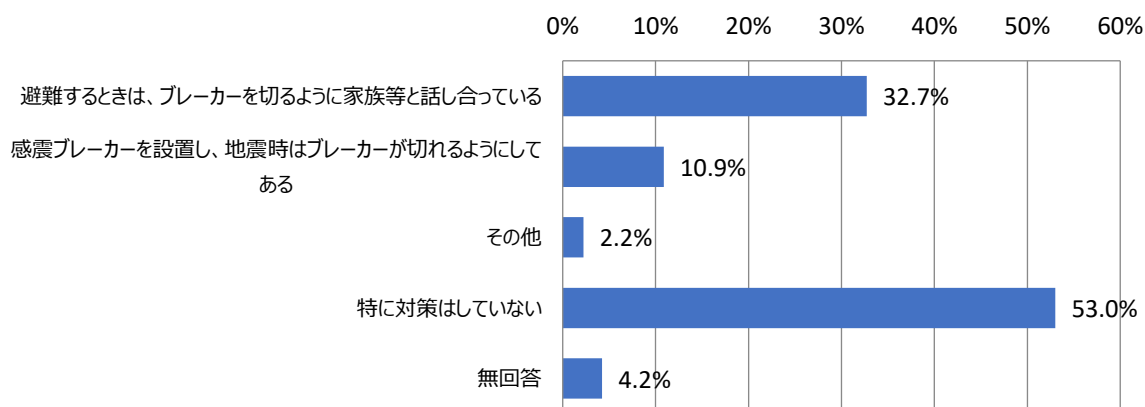
■年齢別 「通電火災」の認知

・49歳以下の年齢層では、「通電火災」について知らない回答者が多い。若年層への有効な防災情報の提供手段・メディアの検討が求められる。

		合計	問11 「通電火災」の認知（単一回答）		
			知っている	知らなかった	無回答
全体		1,794	67.3%	29.5%	3.2%
F1 年齢 (10歳刻み)	29歳以下	141	51.1%	48.9%	0.0%
	30歳～39歳	201	58.7%	41.3%	0.0%
	40歳～49歳	279	62.0%	36.9%	1.1%
	50歳～59歳	301	74.8%	23.9%	1.3%
	60歳～69歳	321	77.6%	20.9%	1.6%
	70歳～79歳	357	69.5%	23.5%	7.0%
	80歳以上	183	65.6%	25.7%	8.7%

問12 「通電火災」を防ぐための対策について（〇はいくつでも）

- ・対策としては、「避難するときは、ブレーカーを切るように家族等と話し合っている」が32.7%であり、「感震ブレーカーを設置し、地震時はブレーカーが切れるようにしてある」との回答は10.9%にとどまっている。
- ・「特に対策はしていない」が53.0%と2人に1人しか対策をしていない状況にある。



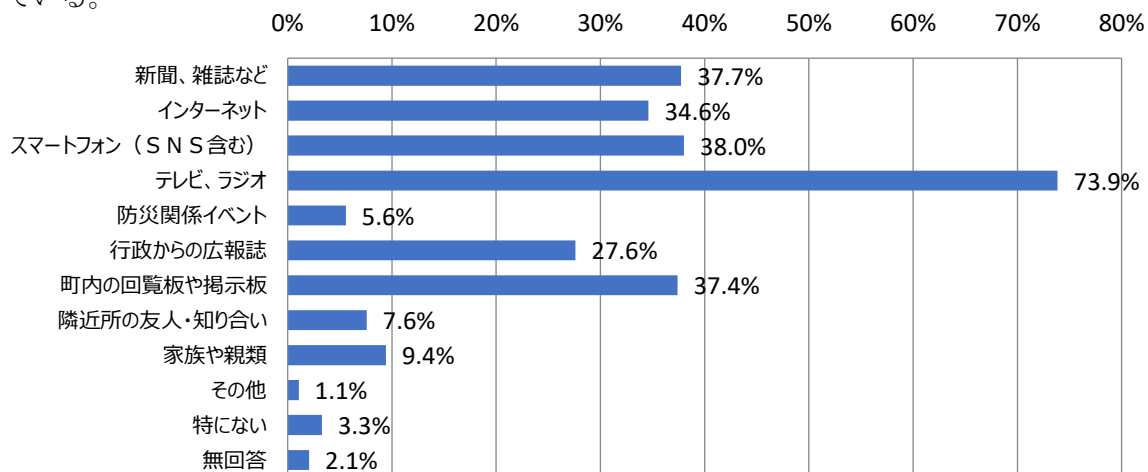
■年齢別 「通電火災」を防ぐための対策について

- ・「特に対策はしていない」という回答は、29歳以下の若年層で特に多く74.5%となる。30歳代、40歳代も60%を超える一方、70歳代、80歳以上では30%台と高齢者ほど対策をする傾向がある。
- ・「避難する時にブレーカーを切るように家族等と話し合っている」は若年層ほど回答率が下がる傾向にある。

		問12 「通電火災」を防ぐための対策について（複数回答可）					
合計		避難するときは、ブレーカーを切るように家族等と話し合っている	感震ブレーカーを設置し、地震時はブレーカーが切れるようにしてある	その他	特に対策はしていない	無回答	
全体	1,794	32.7%	10.9%	2.2%	53.0%	4.2%	
F1 年齢 (10歳刻み)	29歳以下	141	22.7%	4.3%	0.7%	74.5%	0.0%
	30歳～39歳	201	23.4%	11.9%	2.5%	62.7%	1.0%
	40歳～49歳	279	26.9%	7.9%	2.2%	63.4%	1.4%
	50歳～59歳	301	30.2%	9.0%	2.3%	58.5%	2.0%
	60歳～69歳	321	34.9%	9.0%	3.1%	53.3%	2.8%
	70歳～79歳	357	40.9%	15.1%	1.7%	37.0%	8.7%
	80歳以上	183	45.9%	17.5%	2.7%	32.8%	9.8%

### 問13 防災に関する情報を得る手段（〇はいくつでも）

- ・「テレビ、ラジオ」が73.9%と群を抜いて多い。
- ・「新聞、雑誌など」「インターネット」「スマートフォン（SNS含む）」「町内の回覧板や掲示板」はほぼ横並びで30%～40%、行政からの広報誌がそれに次ぐ27.6%となっている。
- ・「防災関係イベント」が5.6%、「隣近所の友人・知り合い」が7.6%、「家族や親類」が9.4%と低くなっている。



### ■年齢別 防災に関する情報を得る手段

- ・「テレビ、ラジオ」は全年齢層にわたって回答率が高いが、29歳以下の若年層は59.6%と若い年齢層の回答率は比較的低くなっている。
- ・「新聞、雑誌など」「行政からの広報誌」「町内の回覧板や掲示板」は若い年齢層ほど回答率が低い。
- ・一方、「インターネット」「スマートフォン（SNS含む）」は若い年齢層の回答率が高い傾向にあり、若い年齢層への情報発信を充実させるには、ネットやSNSでの発信が有効であると考えられる。

		問13 防災に関する情報を得る手段（複数回答可）												
		合計	新聞、雑誌など	インターネット	スマートフォン（SNS含む）	テレビ、ラジオ	防災関係イベント	行政からの広報誌	町内の回覧板や掲示板	隣近所の友人・知り合い	家族や親類	その他	特にない	無回答
全体		1,794	37.7%	34.6%	38.0%	73.9%	5.6%	27.6%	37.4%	7.6%	9.4%	1.1%	3.3%	2.1%
F1 年齢 (10歳刻み)	29歳以下	141	9.9%	53.2%	69.5%	59.6%	0.7%	5.0%	8.5%	5.0%	17.7%	0.7%	7.1%	0.0%
	30歳～39歳	201	16.9%	60.7%	68.2%	72.6%	3.0%	16.4%	24.9%	6.5%	14.4%	0.0%	2.0%	0.0%
	40歳～49歳	279	23.7%	54.1%	55.9%	68.1%	2.5%	19.0%	26.5%	6.8%	8.6%	0.7%	5.0%	0.4%
	50歳～59歳	301	35.9%	42.5%	42.5%	75.1%	3.7%	25.9%	31.2%	5.6%	5.6%	2.0%	3.0%	0.7%
	60歳～69歳	321	49.8%	28.0%	29.9%	79.8%	7.5%	34.6%	47.4%	7.8%	7.5%	1.6%	2.8%	1.2%
	70歳～79歳	357	56.6%	13.2%	15.4%	77.3%	9.0%	40.6%	54.6%	9.5%	9.5%	0.8%	1.4%	4.8%
	80歳以上	183	49.7%	3.8%	5.5%	78.1%	10.4%	37.2%	50.8%	11.5%	8.2%	1.1%	4.4%	4.9%